

大学ポートレート運営会議（第3回）での主な意見

【公表】

- 大学入学者選抜が変わっていくことと連動しながら、大学ポートレートは偏差値重視ではなくて、受験生が本来望むべき情報を提供していると誇ることができるような内容の設定が必要。
- 複数の大学や学部を並べて表示することはしないというのであれば、それを超える魅力をどのようにして出すかを考えないといけないのではないか。
- 大学進学希望者が求める情報をトップ画面から検索できるようにしないと、大学ポートレートに入りにくいのではないかと。大学進学希望者等がどのようなことを要求しているか分析をしてはどうか。
- 現状の大学ポートレートの内容や機能について、高等学校、企業、あるいは進学情報としての視点から、十分だと言う人はいないのではないかと。その危機感がまず必要で、どうすべきなのかを議論すべきではないかと。
- 大学ポートレートで大学の特色を出そうとしても実際のところは困難ではないかと。大学ポートレートは、大学や短期大学が教育情報の公表の部分の正確に社会に周知するデータベースとして機能させれば十分ではないかと。
- 現在のアクセス数で受験生、進学の指導の先生、保護者も含めた主なステークホルダーに提供できているのか疑問。大学入試センター試験の受験者数は超えないと意味がないのではないかと。

【国際発信】

- 近い将来、重要になるのは国際的な視点。日本の大学の目的や種類、どのような道が開かれているのかという基本的な情報が海外の学生には得られていない。大学ポートレートは総合的な情報の窓口として、海外の学生からのニーズは高まっていくと思われるので、時間をかけずに国際発信を実現してほしい。

- 国際発信では、海外の方にしっかりと理解される国際通用性のある英語表記としてほしい。

【認証評価】

- 参加が任意になっている大学ポートレートデータを一律に認証評価で活用するというのは少し無理があるのではないか。

【その他】

- 大学ポートレートは公式のものだから正確であるという情報の質の高さを強みにできると思われるが、分析ができないと意味がないのではないか。大学ポートレートにしかない情報をどのように生み出すかも考えてほしい。